
第 1 回

映画英文法ワークショップ

日時： 2009 年 5 月 9 日（土）

12:50AM～17:35PM

会場： 京都外国語大学 1 号館 171 教室

主催： 映画英語教育学会（ATEM）関西支部

後援： 映画英語教育学会（ATEM）

協賛： （株）フォーイン・スクリーンプレイ事業部

The **A**ssociation for **T**eaching **E**nglish through **M**ovies

プログラム

総合司会：倉田 誠 (ATEM 関西大会実行委員長兼副支部長・京都外国語大学)

12:50-13:00

開会の挨拶

藤枝 善之 (ATEM 関西支部長・京都外国語短期大学)

13:00-14:30

シンポジウム：英語の時制表現に関する一考察

司会：横山 仁視 (ATEM 関西事務局局長兼副支部長・京都女子大学)

小谷 早稚江 (帝塚山大学)

パネリスト：

衛藤 圭一 (京都外国語大学・非常勤講師) 「過去時制と法助動詞」

山本 五郎 (関西外国語大学・非常勤講師) 「時制と意味機能の変化」

前田 真善 (京都成章高等学校) 「will と be going to の使い方を学ぶ」

14:30-14:50

休憩

司会：井村 誠 (ATEM 関西データベース委員長兼副支部長・大阪工業大学)

14:40-15:10

研究発表 1 藤枝 善之 (京都外国語短期大学)

15:10-15:15

休憩

15:15-15:45

研究発表 2 飯田 泰弘 (大阪大学・大学院生)

15:45-15:50

休憩

15:50-16:20

研究発表 3 吉川 裕介 (帝塚山大学・非常勤講師)

16:20-16:30

休憩

司会：平井 大輔 (近畿大学)

16:30-17:00

研究発表 4 石川 弓子 (大阪大学)

17:00-17:05

休憩

17:05-17:35

研究発表 5 近藤 嘉宏 (京都経済短期大学・非常勤講師 / 京都成章高校・非常勤講師)

17:35-17:40

閉会の挨拶

倉田 誠 (大会実行委員長)

18:00-20:00

支部交流会 (11号館 2階ラウンジ)

司会：倉田 誠 (大会実行委員長)

挨拶：藤枝 善之 (支部長)

シンポジウム発表要旨

●衛藤 圭一

発表要旨：

was able to と could は、両者とも過去における「能力」の意味を表すが、過去において達成できた1回限りの行為を表す場合には、前者のみを用いるのが原則とされる。本発表では、映画での使用場面を検討し、一歩踏み込んだ考察を試みる。特に、学校文法で触れられることのない点を指摘し、映画英語の面白さを示すことにしたい。

●山本 五郎

発表要旨：

今回の発表では、未来進行形の意味機能を中心に、未来形と未来進行形、現在進行形と未来進行形を比較することで、時制の違いによる意味変化を映画のシーンを観ながら検証していく。映画の中の生きた英語を通して、学校英語の機械的な書き換えでは見落としがちな表現の違いを味わっていただければ幸いである。

●前田 真善

発表要旨：

will (意思未来、単純未来) と be going to (近い未来の予測) の置換が不可能な場合を映画の中に出てくる表現から抽出し、前後の状況から、この2つの助動詞のニュアンスを分析する。

研究発表要旨

●「名セリフ"Here's looking at you, kid."の文法構造—この訳は「君の瞳に乾杯」でいいのか?—

藤枝 善之 (京都外国語短期大学)

発表要旨：

標題の『カサブランカ』のセリフは、どんな文法構造をしているのであろうか。here は主語か、副詞か、それともどちらにも属さない特殊な構文なのか。「誰もが知ってる決めセリフの知られざる構造」を探求する。各位の意見を y_fujie@kufs.ac.jp まで送付して頂ければ、発表の中で適宜紹介させて頂く。

●「映画で見る「なぜ、どうして」表現の使い分け—Why, How come, What for を中心に—

飯田 泰弘 (大阪大学・大学院生)

発表要旨：

理由を尋ねる一般的な英語表現は、“Why~?” であろう。しかし、映画の中で「なぜ、どうして」と訳される表現には “How come ~?”、“What ~ for?” など存在する。そこで本発表ではまず、この3つの表現に対して報告されている統語的、意味的違いを考察する。次に実際の映画シーンにおける使用例を橋渡し形式で観ることが、非英語母語話者がこれらの使い分けを目指すうえでいかに有用かを紹介する。

●「結果構文の事象構造と意味制限」

吉川 裕介 (帝塚山大学・非常勤講師)

発表要旨：

英語の結果構文は、どのような条件のもとで認可されるのであろうか。本発表では、結果構文を他動詞結果構文と、自動詞結果構文に大別し、それぞれの結果構文における認可条件を事象構造の観点から明らかにする。また、それぞれの結果構文に生起する結果述語が表わす事象の違いを、映画に生起するシーンやコーパスを用いて実証的に指摘する。

●「英語の軽動詞の意味的役割について」

石川 弓子 (大阪大学)

発表要旨：

軽動詞は意味的に重要な役割を果たさないとされ、名詞句と組み合わせられることによって「～する」という意味を表すとされるが、*take a swim*と*make a swim*は同じ状況で用いられる訳ではない。本発表は、映画の中で軽動詞表現が実際に用いられている文脈を比較検討し、英語の軽動詞の意味的な役割について論じる。

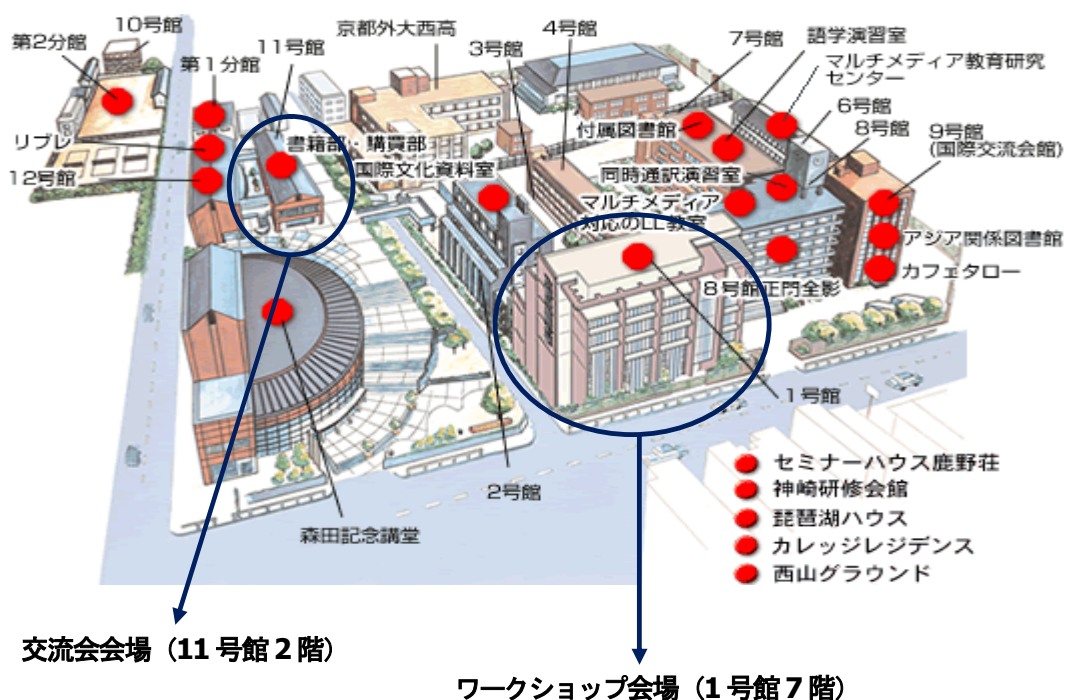
●「that 補文と仮定法 ー仮定法現在と仮定法過去を中心にー」

近藤 嘉宏 (京都経済短期大学・非常勤講師 / 京都成章高校・非常勤講師)

発表要旨：

授業で利用可能な、提案・要望・命令をする表現についての一考察を行う。映画の一場面を使うことにより、その状況に応じた発話の意味を正しく理解させ、自然な表現を習得させる一助になればと考える。It's high time that we used movie scripts in English classes.

会場校キャンパスマップ



新会員申込は本部 HP (<http://www.atem.org/pg113.html>)

「会員登録」から

氏名、住所、電話・FAX、E-mail、勤務先、所属/職業を明記し、

電話・FAX または E-mail でお申込みください。

※会員名簿は発行していません。

申込先：映画英語教育学会 事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-3-12 アルク高田馬場 4F

株式会社 広真アド内

TEL: 03-3365-0182 FAX: 03-3360-6364

E-mail: office@atem.org

ATEM Kansai

<http://www.atem.org/kansai/index.html>

映画英語教育学会 (ATEM) 関西支部

事務局：京都女子大学外国語教室

横山仁視研究室内

yokoyama@kyoto-wu.ac.jp